

福祉スタートアップ旗艦店に岩手県産クリ什器

人々に根差す文化づくり目指す

ヘラルポニー

ヘラルポニー(岩手県盛岡市、松田崇弥・松田文登共同代表)は3月29日、盛岡市のカワトク百貨店1階に旗艦店「ISAIPARK(イサイパーク)」を開店した。内装には岩手県産材のクリを用いた什器(商品展示するための棚や台など)を導入し、岩手ならではの空間デザイン実現を目指した。

同社は障害のある契約作家などによるアートデータを扱ったブランド事業、ライセンス事業を手掛け、全国でも注目を集めている福祉スタートアップ企業。イサイパークは、「盛岡の玄関口として誰もが足を運んでもらえる場所として、はやり磨りではなく、本場の意味で人々に根差す文化をつくっていくことを目指す」(同社)と意図を込めて、同社の常設店は東京・銀座に次ぐ2店舗目。

衣類や小物販売のスタートアップ、ギャラリー、ま



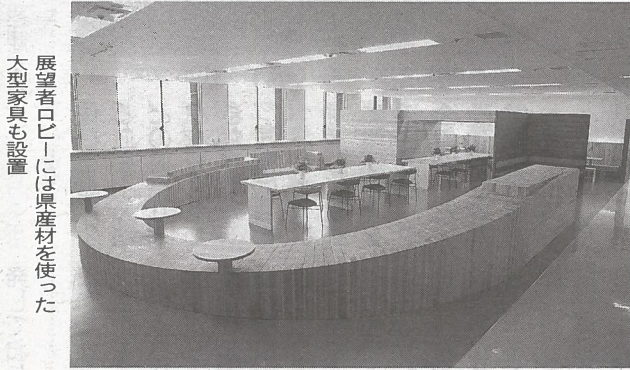
盛岡の百貨店に開設した店舗外観のパーズ四

たカフェも併設している。同社は岩手県の「木づかい宣言」事業社として、

徳島県は県庁舎1階の食堂と展望者ロビーをリノベーションし、木質化した。リノベーションした壁や什器には、同県産の杉や松(合計12・1立方尺)を採用。また、このリノベーションを機にそれぞれ愛称を付け、食堂を「COOCAGEキッチン(こかけキッチン)」、展望者ロビーを「COOCAGE(こかけ)」とした。なお、3月24日には完成披露を兼ねて報道関係者向けに見学会を開いた。

今回の整備面積は食堂のベンチシート、展望者ロビーが160平方メートル、ツキ板シートの壁材を採用。一方、展望者ロビーには県産材をふんだんに使用した大型家具、テーブル、ソファ、針葉樹合板のスタンディングテーブルを設置した。

同県は「開かれた県庁の実現」と「職員の



展望者ロビーには県産材を使った大型家具も設置

什器には県産杉・松を採用

徳島県

働く意欲向上」を目指し、食堂と展望者ロビーを誰もが利用しやすい快適な空間にリノベーションするため、

「WOOD&MEETS」県庁木質空間PR事業を開始。公募型プロポーザル方式により企画提案を募集し、同事業委託業務受注コンソーシアム(菅建設、島津臣志建築設計事務所、千葉設計室、もりまちレゾリエンス)が最優秀提案者に選定された。設計・施工は同コンソーシアムが24年10月に開始した。

同県林業振興課の担当者は「内装制限があるなかで木材をどのように見せるかは難しかったが、木製什器を多用することで木質化できた。殺風で、能登ヒバを使った景観が、このピアノは石川県に寄贈され、県

能登ヒバのグランドピアノ完成

石川県に寄贈、県庁展望台に設置

フルタニランバー

フルタニランバー(石川県金沢市、古谷隆明社長)は、河合楽器製作所(浜松市、河合健太郎社長)と共同で、能登ヒバを使用したグランドピアノを製作した。このピアノは石川県庁に寄贈され、県



「能登の森ピアノ」

3月25日には、ピアノの寄贈記念式典が石川県庁で開かれ、馳浩石川県知事も出席。このグランドピアノは、能登の復興への思いや林業従事者への応援、(大阪府門真市、鮫島隆博社長)は1日、「リベルタージュロン」の受注を始め、2024年8月に販売を開始した省スペースに設置できる小規模共同住宅用エレベーター「リベルタージュロン」の奥行きを約1・2倍に広げ、車椅子やベビーカーの移動も

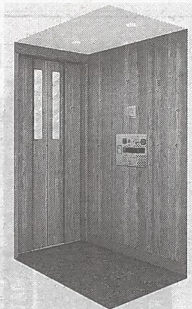
新製品 紹介

業界最長の奥行きEVパナソニックハウジングソリューションズ

パナソニックハウジングソリューションズは、ズグループのパナソニックエレベーター(大阪府門真市、鮫島隆博社長)は1日、「リベルタージュロン」の受注を始め、2024年8月に販売を開始した省スペースに設置できる小規模共同住宅用エレベーター「リベルタージュロン」の奥行きを約1・2倍に広げ、車椅子やベビーカーの移動も

楽に行えるように配慮した。住宅価格が高騰するなかで賃貸住宅を選択する世帯が増えていることを背景に、小規模な賃貸住宅であってもエレベーターを設置する物件が増えている。ただ、家具や家電などの持ち運びや、子育て世帯からはベビーカーの移動が楽になるように、かご内の空間が広がっている。

ドアカラーは従来商品と同様に9色、ルーム内カラーは3色を展開。価格は540万円(税別)から。販売目標は26年度に40台としている。



業界最長の奥行きで利便性がアップ

ことへのニーズがあった。今回のラインアップは、拡充では、

CLTベンチを万博に寄贈

三東工業社

三東工業社(滋賀県甲賀市、奥田克実社長)は、2025年大阪・関西万博の関西パビリオンに設けられた滋賀県のブースに木製ベンチを寄贈した。ベンチの材料には地域産材であるびわ湖材を使用したCLTを採用した。同社は、9・10月に滋賀県で実施される「国民スポーツ大会」「全国障害者スポーツ大会」でも同様のベンチを寄贈する予定で、このように取り組みを通じて木の良さやCLTの良さをアピールしていく考えだ。

CLTベンチは幅1800×奥行き400×高さ420。CLTは5層5プライ、使用量は0・15立方尺で、建設工事に出た端材を有効活用した。同パビリオンの滋賀県ブースでは、地元の名産品であるのれんや暗幕で囲ったスペースに信楽(しがらき)焼で作ったパネルを置き、そこに滋賀県の紹介ビデオを投影して来訪者に視聴してもらう演出を取り入れている。今回寄贈したベンチは映像を座って見てもうたに留意したものだ。

滋賀県は万博のブース内で使用する資材を提供する県内企業を24年7月に募集。三東工業社は募集されていた



CLTの建築端材を有効活用して作った。座った人には木材の温かみやCLTの頑丈さを感じてもらいたい。今後このような要請があれば、ぜひとも協力させてもらいたい」と話した。

三東工業社

「ベンチ」のパートナーに応募し採用が決

定。その後、CLTの材料を地元の織田工務店(甲賀市、織田好泰代表)に持ち込みベンチを製作した。同パビリオンは、そのほか、浅尾(滋賀県長浜市、浅尾年彦社長)、笹木木工(同米原市、笹木昭広社長)、本と(同大津市、浅井翔平代表)

三東工業社の吉田晴彦

「CLT技術部部長は「滋賀県の企業として協力したかったのと、びわ湖材やCLTの良さを国内外に少しでも発信することができるとの思いから応募した。CLTは構造材だが、端材をこのように有効活用して作って座っていただくには木材の温かみやCLTの頑丈さを感じてもらいたい。今後このような要請があれば、ぜひとも協力させてもらいたい」と話した。

置き型サウナ「TILAA」

ヤマチコーポレーション

ヤマチコーポレーション(札幌市、山根地草夫社長)は、住宅向け置き型サウナ「TILAA」の販売を始めた。TILAAは、工務店や建築事業者向けに開発した、住宅に手軽に導入できる新しい置き型サウナだ。PSEマークを取得しており、一般的な電気工事のみで使用可能。また、置き型設計により既存の建物にも簡単に設置でき、サイズや素材、デザインのカスタマイズが可能。サイズは1500×1100×2000、2人用は1500×1100×2000、3人用は1500×1100×2000。樹種はヘムロックとレッドシダーの2種類、ガラスはクリアとブラックの2種類から選べる。



置き型サウナ「TILAA」(ティラア)